

9 / 1 1  
三矢会館

# 「羽村市の小中一貫校どうなるの？」集 会で様々な意見・疑問出される



去る9月11日、三矢会館において、「羽村市の小中一貫校どうなるの？」と題した集會が開催されました（主催は羽村市小中一貫校対策会）。教職員、父母、市民など約40人が参加し、羽村市が計画する小中一貫教育校について様々な意見がだされました。

集いには羽村市教育委員会から黒羽小中一貫教育担当が参加し、計画の到達点について報告し、質疑をうけました。

また、足立区から教員がかけつけ、同区でおこなわれている小中一貫教育校についての現状を報告しました。



まず最初に、羽村市教育委員会の黒羽氏から、実施にむけた手続きやスケジュール案（裏面）などが報告され、続いて参加者からの質疑がおこなわれました。

## 参加者からの質問と、教育委員会からの回答

Q. 小中一貫教育をやる、やらないを含めて、保護者や市民から声を聞いていくのか？

A. やる・やらないを決定するのは教育委員会定例会。5人の教育委員が出された議案をもとに決定する。

Q. 市民の声を聞いていくというが、どのくらいの時間を考えているのか？

A. 今のところ武蔵野小・三中は平成23年度実施の予定。ただしパブリックコメントや説明会で出された意見について教育委員会で審議する必要があるため、どのくらい意見が出てくるのかによって変わってくる。

Q. 教育委員会は小中一貫教育のデメリットについてどう考えているか？

A. 一番のデメリットは予算がかかること。先生の多忙感を軽減するため、教員を増やす必要があるからだ。

Q. 一貫校になると子どもの生活はどのように変わってくるのか？小5～中1の子どもは、日常的に相互乗り入れをおこなうのか？小学生が中学校に行く、中学生が小学校に行くのはどのくらいあるのか？

A. 具体的にどうなるのかは、各校区ごとに今後決めて行くこと。



Q. 武蔵野小では5、6年生は三中に教室を移動すると聞いていたが、それはどうなるのか？

A. 中間報告ではそれは盛り込まれていたが、最終報告には入らない。その計画は消えたわけではなく、武蔵野小・三中の実施計画で考えるべきことだからだ。

Q. 武蔵野小と三中の間に2億円かけて橋をつくと聞いている。どうして一番相互交流がしやすい学校同士に橋をつくるのか？他の中学校区とくらべて、教育の機会均等の点から問題があるのでは？

A. 武蔵野小、三中の隣接しているという特色を生かすためだ。

Q. 一貫校になると、子どもにとって6年生で卒業し、中学に入学するという意味はどのように変わってくるのか？

A. あくまでも小6が中1にスムーズに移行するための手段として考えている。子どもの意識は変わらないと思う。